

仙台市社会福祉審議会老人福祉専門分科会・ 仙台市介護保険審議会合同委員会 議事要旨

日時：平成23年9月7日（水）13:30～15:20
場所：仙台市役所本庁舎2階第二委員会室

< 出席者 >

【仙台市社会福祉審議会老人福祉専門分科会】

折腹実己子委員、武田美江子委員、永井幸夫委員、橋本典子委員

以上 4名、五十音順

【仙台市介護保険審議会】

阿部一彦委員、石川忠夫委員、石原祥行委員、上田千恵子委員、関東澄子委員、
菊田豊委員、日下俊一委員、小林孝夫委員、駒形守俊委員、佐々木玲子委員、
庄子清典委員、関田康慶委員、瀬戸敏之委員、高城和雄委員、山崎豊子委員

以上15名、五十音順

< 欠席者 >

老人福祉専門分科会 阿部重樹委員、佐伯康全委員

介護保険審議会 安藤恵美子委員、大内修道委員、小松洋吉委員、土井勝幸委員

【仙台市職員】

高橋保険高齢部長、浅野高齢企画課長兼介護予防推進室長、伊藤介護保険課長、佐々木保険年金課長、太田健康増進課長、小原青葉区障害高齢課長、伊藤宮城野区障害高齢課長、後藤若林区障害高齢課長、武山太白区障害高齢課長、山崎泉区障害高齢課長、白山高齢企画課主幹兼企画係長、松原高齢企画課在宅支援係長、伊藤高齢企画課施設係長、小椋介護予防推進室主査、庄司介護保険課管理係長、高橋介護保険課介護保険係長、福原介護保険課主幹兼指導係長

< 議事要旨 >

1. 開会

会議公開の確認 → 異議なし（傍聴者なし）

議事録署名委員について → 武田委員、上田委員に依頼 → 委員了承

2. 議事等

【議事】

- (1) 仙台市高齢者保健福祉計画（介護保険事業計画）基本目標と施策の体系（案）について
浅野高齢企画課長兼介護予防推進室長より説明（資料1）

<質問事項>

委員： 「地域で最期まで暮らす」ことについては、各論の中で検討していくということだが、検討の段階で考えていただきたいのは、施策の柱の5番目「『地域の支え合い』への支援」の「地域の関係機関による連携強化」の分類として「(ア)多様な機関により支援」「(イ)介護と医療の連携強化」「(ウ)地域包括支援センターの機能強化」があるが、この中に、例えば「医療と介護の連携」とか「施設や住宅系との連携」とか「訪問介護事業所同士の連携」とか「地域の人々との連携」とか、国で言っている柱の部分を入れていただくといいのではないかと思います。

事務局： 地域の関係機関による連携の中には、様々な連携の仕方があると思うので、ただいまのご意見を踏まえて、各論を検討していきたい。

委員： 今後、これらの市の施策がパンフレット等に掲載されることになる。介護に関わる年代は30代の方も結構おり、そういう若い方が資料を初めて見てスッと頭に入ってくるような、表現とか言葉づかいとかをもう少し工夫していただきたい。

事務局： 役所の計画は、一般の方々から見ると分かりづらいというのは多々あったかと思う。出来るだけ見ていただけるよう分かりやすい表現を工夫していきたい。

- (2) 仙台市高齢者保健福祉計画（介護保険事業計画）中間振り返りについて
白山高齢企画課主幹兼企画係長より説明（資料2）

<質問事項>

委員： 実際に現場近くに関わっている方々は、その分野は細かくお分かりかと思うが、一方で他の分野のことはよく分からないということもあると思う。したがって、そういう情報を共有する仕組みや、或いは皆が分かるような指標を作って、それがどのように動いているのかということを確認していくようなプロセスが必要だと思う。健康状態を管理していく上ではそういう指標を使うが、このような施策や事業を実際に実施していく過程においても、そういうものがないと、思い込みの事業評価がされているとすればもったいない話である。関係事業者の方や行政等と一緒に、仙台市の健康づくり或いは介護福祉分野の状態をいかににより良くしていくか、ということ相互に議論したり改善したりしていくことが出来るような仕組みが必要だと思う。是非、皆で考えていただければと思う。

委員長： 本日は、介護保険関係者に多数お集まりいただいているが、只今の事務局の説明に対して、何かご意見はあるか。

委員： 1ページ目の「高齢者の就業支援」の中の「シルバー人材センター」について、現在、どのような職種がニーズとして一番求められているのか。派遣業的な面もあるが、収益的に見て黒字か赤字か、そういうところに市の予算はついているのか。また、就業開拓について特に営業展開はしているのか。シルバー人材センターは知名度が高いので、周囲から自動的に斡旋依頼があるかとも思う。また、3ページ目の「円滑なサービス利用のための取り組み」の主な施策の中で、21、22年度と実績が全くないものがある。なぜ施策を立てて実績がないのか説明いただきたい。

事務局： シルバー人材センターの基本的な仕組みは、シルバー人材センターに会員登録をしていただき、会員の方に短期的な仕事を斡旋するというものである。仕事がないと生活上困るという方が会員になられている場合もあるし、リタイアされた後に生きがいづくり・社会貢献ということで会員になられている場合もあり、就労ニーズの幅はかなり広い。通常の雇用にはとられない運営の中でやっており、特に高いニーズは中々言いにくいですが、昨今の経済状況の低迷から、家計を支えるという意味で仕事を求めるニーズはより切実になっているといえると思う。業種的には、例えば庭の除草や施設の清掃業務などの軽作業がメインとなっている。収益については、昨年、今年と赤字であり、経営基盤の強化は我々としても喫緊の課題となっている。就業開拓については、シルバー人材センターは知名度が高いというお話もあったが、団体の存在をお分かりではない方も中にはいらっしゃるため、営業経験を持つ会員の方に就業開拓員になっていただき新たにグループを作り、小さな地域を設定して、営業活動をしていただいている。

委員長： 収支の部分をもう少し詳しくご説明いただきたい。

事務局： ここ1、2年の状況を見ると、一昨年のリーマンショックによる影響が大きく、収支としては赤字となっている。その部分に関しては、シルバー人材センターの中で、組織を含めた見直しを図り対応をしている。中長期的な計画を立て、着実に赤字にならないような体制強化をしていくということで、就業開拓のための新たなチームを作り、その改善をすべく現在対応している。

委員： 人材派遣という業種に近いということを考えれば、経費の殆どは人件費であり、それほど経費のかかる事業ではないと思う。8億から9億の売り上げがあるということだが、赤字というのは少し解せないなので、きちんと調査をして、人員削減などの再チェックは必要だと思う。

事務局： ご指摘の「円滑なサービス利用のための取り組み」の実績について、数字が入っていない箇所については、事業を実施しなかったということではなく、ここでいう指標、例えば研修会なら何回とか相談だったら何件とか、具体的な件数という形で載せなかったということで、事業自体は実施している。それにしても、皆様に分かりやすいような指標として何らかの工夫をしてここに載せることは可能かと思うので、指標ということについては今後検討していきたい。

委員長： シルバー人材センターについては、経営分析をしっかりとっていただきたいとのことなので、事務局よろしくお願ひしたい。

委員： 資料2の1ページ目にある「ねんりんピック」について、どのような祭典かよくお分かりではない委員もいらっしゃるようなので、ご説明いただきたい。

事務局： 一言で言えば、お年寄りの国体のようなものである。来年度に全国大会が仙台で開催され、7種目が行われる予定である。なお、詳しくは、後ほどの議題の資料の中でも触れさせていただきたい。

(3) 仙台市高齢者保健福祉計画（介護保険事業計画）構成（案）について
浅野高齢企画課長兼介護予防推進室長より説明（資料3）

<質問事項>

なし

(4) 高齢者保健福祉施策の推進について
白山高齢企画課主幹兼企画係長より説明（資料4 - 1）
小椋介護予防推進室主査より説明（資料4 - 2）

<質問事項>

委員： 資料4 - 2の2ページ目の「口腔機能の維持向上」について、口腔ケアは介護予防に大いに役立つことであり、仙台歯科医師会でも積極的に取り組んでいきたい。仙台市でも相談があったらよろしくお願ひしたい。また、同資料の4ページ目の「2. 環境づくり」の「さらなる普及啓発」の中に、「仙台市医師会と仙台歯科医師会と連携」とあるが、この中に「仙台市薬剤師会」も是非入れていただきたい。

事務局： ご指摘のとおり検討したい。

委員： 只今の駒形委員からのご意見のとおり、仙台市薬剤師会でも協力していきたい。

委員： 資料4 - 2の柱の「豊齢力アップ」を目指した介護予防・健康づくりの推進について、どのような高齢者を対象としているのか、また、生活保護受給者や無年金生活者など低所得の高齢者の方も全て利用できるものなのか、そのような方に対してどのように考えているか。

事務局： 介護予防の対象となる高齢者の捉え方については、一言で言えば、どういった方がという訳ではなくすべての高齢者の方、もう少し言えば例えば50代後半くらいの方にも介護予防は大切であると考えている。国の事業の仕組みでいうと「一次予防」「二次予防」という言い方があり、「二次予防事業」は特に将来「要介護」「要支援」となっていく可能性が高いと考えられる方というカテゴリーに

なり、そういった方々向けの施策も通所型介護予防事業などで行っていくが、今回の介護予防推進プランの考え方として特に重視しているのは、特に介護予防が必要と思われる方というよりは、介護予防をより身近に感じていただけるよう幅広い取り組みを行っていきたいということである。そういう意味でも、これまでの運動中心のものから趣味的な活動を行うことまで十分介護予防につながっていくと考えているので、なるべく幅広く展開していきたいと考えている。低所得の高齢者への対応としては、現在の事業も介護予防のためにコストがかかるようなことは基本的にないということで行っている。一方で介護予防に対して何となく敷居が高いと感じることのないよう、分かりやすく、まずは介護予防について説明していくことが重要だと考えている。

委員： 「口腔機能の維持・向上」について、仙台市が市民センターなどで講座を行うことはもちろん大切だが、小さな単位の団体でも地域活動の中で気軽に頼める仕組みを作っていただきたい。この前、社協のサロンで市の出前講座を利用した。そのような地域に直接来てお話いただけるような方を探している。お金が絡んでくると中々大変である。健康づくりや口腔ケアへの関心は特に高い。

委員： 現在、仙台歯科医師会では、年間30～40回くらい地域包括支援センターからの依頼により出前的な講演会をしている。地域包括支援センター以外の町内会等にはまだコマーシャルをしたことはなかった。講師料は若干かかるが、ご相談いただきたい。

委員： 地域における健康講話などは、地域包括支援センターにもご相談いただきたい。費用等についてもご相談させていただきたい。

委員： 資料4 - 2の3ページ目の「世代間交流」であるが、老人クラブでは、会員が介護予防も兼ねて、小学生や中学生、児童館、子育て支援など色々な面で世代間交流を行っているが、その活動があまり知られていない。老人クラブを認めてもらう意味でも、老人クラブができることをもっと打ち出していきたい。

委員長： 仙台市では核家族が多いため、子供たちにとって高齢者が身近に居る機会は少ない。このような世代間交流は大変よいと思う。

委員： 介護予防のために仙台市が様々なものを打ち出すのはよいと思うが、世代によってニーズは違うと思う。例えば高齢者向けのIT講座は人気が高い。そのような皆が行きたいと思うもの、出掛けたくなるような気にさせる企画を増やすなど、中身を吟味していただきたい。これからはパソコンを使うことは高齢者にとって大切。社会に繋がっていくものであり体が悪くてもできるという面でももっとたくさん的高齢者が使えるようになればいいと思うが、一方でなかなか行き詰ってできないという方もいる。子育て支援についても、何かお手伝いしたくても何ができるのか情報があまりないので、情報を流してほしい。市政だよりについては、字が小さいので、高齢者向けの情報を集めて字を大きくするなどの工夫をしていただきたい。

委員： 「介護予防」という言葉について、国の制度で作られた用語なので行政としては使わざるを得ない用語だと思うが、これについては市民からの抵抗感・反発感

もある。そもそも「特定高齢者」は、要介護や要支援になる可能性の高い高齢者へのサービス提供であるが、今のところ要介護・支援ではない方々なので「介護」と聞くと反発するというのをよく聞く。同じことをする場合でも、「健康予防」や「健康増進」などに言葉を変えるなど、いずれ「介護予防」という言葉には抵抗感を感じる。なお、もっと重要なこととして、要介護3以上の方の原因疾患は脳卒中であり、その7割以上が脳梗塞であるが、脳梗塞の症状について市民の方がもっと理解を深め、その症状に早く気づいて病院へ搬送し2時間以内にt-PAの投与ができるようになると、障害がでることのない可能性が高くなり、本当の介護予防になる。そのような話を専門家にご提供いただくほうがずっと介護予防となる。なお、AEDについても、どのような状況で使うものなのかくらいの情報提供はしておく必要がある。そういうことも含めて、医療介護の連携ということが色々必要となるが、このような情報を啓発として提供する企画を、計画の中に取り入れていただければと思う。

事務局： 介護予防推進プランは、全庁的に介護予防を進めようという意図を含めて策定したものである。いただいたご指摘を踏まえて、関係する機関とも相談しながら、出来るだけ計画の中に盛り込めるものは盛り込んでいきたい。

委員： そのような患者が病院に殺到すると病院側で受け入れられなくなるので、脳卒中对応の基幹病院、24時間でt-PAに対応できるような病院の整備も同時にやらないと難しい。症状にすぐ対応するために医師会との連携も必要となる。

委員長： 今の話は非常に重要なこと。医師会としてもより積極的にやっていきたい。

委員： 避難所における「廃用症候群」の防止について、「生活不活発病」という言葉で仙台市医師会は積極的に取り組んだということをお聞きしたが、このことから言葉は大事だと感じた。なお、「ねんりんピック」について、仙台市や宮城県の体育施設は現在大変な状況かとも思うが、開催予定について変更などの情報があれば教えてほしい。

事務局： 当初、県内で21種目、仙台市では7種目行う予定であった。仙台市では、開催が来年の10月ということもあり、全て行える予定である。県内では、気仙沼や石巻市などで開催できないなど、会場変更も含め現時点では18種目で行う予定となっている。

委員長： 「廃用症候群」は先の見えない不安を感じる言葉であるが、その点「生活不活発病」は希望が持てるような言葉である。医師会では、宮城野区や若林区など厳しい避難所を回って支援したが、そこではお年寄りが全然動いておらず、一週間たっても同じ状況であった。そこで取り組みを始めたところ、高齢者が一生懸命、体操したり動き出したりした。これはよい取り組みなので、色々な場面で取り入れていただきたい。

委員： 資料4-1の「外出支援」の「敬老乗車証」に関連して、バスを利用するにあたり、バス停に椅子を置くというのはどうか。椅子があれば待ち時間が楽になり、それが少しでも外出支援につながる施策であればとも感じるが、ご意見を伺いたい。

事務局： 仙台市のバス停も少しずつ変わってきており、待つ場所・休める場所があるバス停も見かける。ただし、そういうバス停は、歩道の幅が広い場所に限定されている。狭い場所は固定の物を置けないという事情もあるようだが、いずれバス交通の利便性を高めるということで、担当部署で検討して可能なところは工夫してやっている。中々クリアできない条件等があるようだ。

- (4) 高齢者保健福祉施策の推進について
- (5) 介護保険事業の円滑な運営に関する方策について
伊藤介護保険課長より説明（資料５）

<質問事項>

委員長： 只今の資料については、委員の皆様にお読みいただき、次回の委員会にご質問等があればお出しいただきたい。

【報告】

- (1) 地域包括支援センター運営委員会（第６回会議）について
日下委員長より説明（資料６）

<質問事項>

なし

３．その他

事務局より、次回の開催日程について報告した。

４．閉会